

## 2学校、1センターにおけるネットワークコンテンツを活用した授業実践

千葉県旭市立矢指小学校 教諭 橋村 昌樹

Eメール：es-yasashi@edu.city.asahi.chiba.jp

キーワード：DWSシステム、テレビ会議システム

### 1. はじめに

旭市には、旭市教育情報センターを基点として、地域密着型のDWSシステムが確立されている。また、本年度より学校間を結んだテレビ会議が行えるようになった。そこで、新しい地域学習のあり方を検証するために、地域人材の協力や見学調査等に加えDWSシステムの有効活用の在り方を探っていく。また、テレビ会議システムを使って共同学習の場を設定し、知の共有化を図り、児童のコミュニケーション力を伸ばす等の、市内全域の学校における地域イントラネットの有効活用を推進する。以上のことを目標として授業実践を重ねることとした。

### 2. 1次研究

#### (1) 研究の目的

DWSシステムの効果的な活用方法とテレビ会議の可能性や有効な活用方法を探る。

#### (2) 実践の概要

本実践は、4年生の社会科「椿の海の干拓」という地域の発展につくした人についての学習を通して検証を行った。

この学習は主に副読本や関連書籍などの紙媒体による調査活動が主となる。そこで、紙媒体による調査活動では十分ではない事柄について、DWSシステムから画像や統計資料を補充し理解を深める活動を行った。また、干拓事業の水路である「新川」を学区にもつ小学校とテレビ会議を通して情報交換を行い、知の共有化を図る活動を行った。

#### (3) 成果と課題

- ため池やひでり等、文章だけの情報をDWSシステム上の画像を見てイメージをつかむことができた。
- 他校との情報交換の際、その地域に伝わる話など新たな情報を得ることができた。
- DWSシステム上のデータの充実をより一層図る必要がある。（センターとの協体制の確立）
- DWSシステムの特性にしたがった学び方を児童に習得させる必要がある。
- テレビ会議は主に一对一の情報交換になりがちなので、当事者とその他の児童の目的意識をはっきりさせる必要がある。
- 现阶段では「いつでも、誰でも」という状況になっていない。より手軽に使用できるようにしていく必要がある。



写真1 テレビ会議

### 3. 2次研究

#### (1) 研究の目的

より機動性の高い情報伝達手段として、テレビ電話と携帯電話（フォーマ）を使った授業実践を行い、テレビ会議の更なる可能性を探る。

#### (2) 実践の概要

本実践は、4年生の総合的な学習「生き物調査をしよう」を通して検証を行った。

この学習は食と環境の関係を探ることをテーマとした学習である。3学期に全ての調査活動が終わり、同テーマのまとめと次学年（3学年）への伝達を行う。その際、活動場所や活動内容の説明を、現地に赴いた4年生の代表児童が、携帯電話を使用して教室のテレビ電話に通話する。このような情報伝達を行い、より確かなイメージを伝えることができた。

#### (3) 成果と課題

- テレビ電話と携帯電話をつなぐ情報伝達手段のよさ（リアルタイムで現場の情報が得られる）がわかり、イントラネットを使ったテレビ会議以上に動的な授業展開が可能であることが実感できた。
- 映像や音声の乱れがイントラネットのテレビ会議より多くなり、授業の中断などのトラブルに見舞われやすい。
- 維持費などの金銭的なコストが高くなってしまふ



写真2 テレビ電話



写真3 携帯電話での通信

### 4. 今後の取り組み

- DWSのデータの更新・追加等を教育情報センターにお願いするだけでなく、教師は無論地域の方々、そして児童も含め、みんなの力で使いやすいものにするよう常に充実を目指す協働体制が必要となる。
- テレビ会議システムの活用については、まだスタートしたばかりなので、市内20校の連携や活用方法の開発等、研究をさらに進めていく必要がある。また、イントラネットを使った会議だけでなく、その他のモバイルも有効に活用した実践も推進していくことが必要となる。